

会議議事録

会議名	2024 年度第 1 回看護分野教育課程編成委員会
開催日時	2024 年 7 月 16 日（火）15：00～17：00
場 所	1 階 会議室
出席者 （敬称略）	①企業等委員：小林映子（社会医療法人河北医療財団河北総合病院看護部長）（1 名） ②本校委員：川口拓也（校長）、伊東由美（看護課学科長）、榊原幸之（事務局長）、前田律子（副校長・オブザーバー）、岡本隆行（看護科教員）、渡邊明子（看護科教員）（計 6 名） ③事務局：安里良美（1 名） （合計 8 名）
欠席者	大沼扶久子（公益社団法人東京都看護協会西部地区理事）
配付資料	①事前送付：資料 1：2023 年度第 2 回看護分野教育課程編成委員会議事録 資料 2-1：前回委員会以降の主な経過報告 資料 2-2：第 113 回看護師国家試験結果 資料 3：臨床看護の実践Ⅰ・Ⅲ 資料 4：2024 年度授業計画表 資料 5：2024 年度実習計画表 資料 6：2025 年度生カリキュラム計画 資料 7：キャリアデザインⅡ進捗状況 資料 8：2025 年度実習計画
議 長	伊東学科長
議 事	1. 校長挨拶 川口校長より、看護科は実習のウエートが非常に高い。本校は実習が一つのところ でできることに魅力を感じて入学する学生も多いので、ここが変わることによって学 生の反応がどうなるかが気になるところではある。来年は建て替えという事情があ り、致し方ないが、今後も実習を継続していただき、一人でも多くの学生を受け入れ ていただきたい、との挨拶が行われた。 2. 前回委員会議事録の確認（資料 1） 委員より特段の意見はなく、個人情報に配慮した上で公開することが確認された。 3. 前回委員会以降の主な経過報告（資料 2-1・2-2） 担当者より資料 3 に基づき説明が行われ、確認、了承された。説明・質疑・意見の 詳細は別紙のとおり。 4. 2024 年度の活動報告 ①新規科目の履修・3 年生（資料 3） ②2024 年度授業計画および実習計画について（資料 4・5） ③2025 年度教育課程変更について（資料 6） 各担当者より資料 3 および資料 4・5・6 に基づき説明が行われ、確認、了承され た。説明・質疑・意見の詳細は別紙のとおり。 5. 2024 年度の教育活動と学科運営 ①授業科目臨床看護の実践Ⅰ・Ⅲ ②授業科目キャリアデザインⅡ進捗状況（資料 7） ③2025 年度教育課程変更検討について（資料 8） 学科長より、資料 7・8 に基づき説明が行われ、確認、了承された。説明・質疑・ 意見の詳細は別紙のとおり。 6. 次回日程、その他 ・2024 年度第 2 回委員会 ①2024 年度の教育活動と学科運営の報告 ②2025 年度カリキュラム案へのご意見伺い 他

	次回の日程は、2025 年 2 月 4 日（火）15 時～17 時に仮置きし、予定している議題は上記①と②であることが確認、了承された。
--	--

以上

2024 年度第 1 回看護分野教育課程編成委員会の主な討議内容

2. 前回委員会以降の主な経過報告

○榊原事務局長より、以下の説明があった。(資料 2-1)

- ・退学状況
- ・就職内定状況：全体として非常に良好。看護科は 100%内定。
- ・学生募集状況

○川口校長より、以下の補足説明があった。

- ・高校生自体が減っている中で、通信制高校に進む学生が増えている。
- ・看護も含め医療分野への志望者が減っており、大学でも定員を減らし始めている。
- ・進路の決定が早期化しており、確約が出た人が、申し込んだオープンキャンパスに来ないことも考えられる。

○伊東学科長より、看護師国家試験の結果について報告があった。(資料 2-2)

・新卒の学生は全員合格。専門学校で 100%合格したところは非常に少ないので、売りにしていきたい。在校生にも大きな刺激になっている。

○主な質問・意見等

質問・意見等	回答等
・看護師国家試験 100%合格は、どのような活動によるものか。	・学生の頑張りももちろんだが、教員もかなりサポートした。 ・スマホで自学自習できる国家試験対策アプリを導入した。 ・アプリは今の学生には合っている。自分でお金を払うことで意識を高める効果はあったと思う。
・ホームカミングデーは、就職した学生の動向を確認するよい機会になると思うが、今年の参加者は何人か。	・比較的多かった。できることが増えてうれしい、実習で学んだ記録の書き方や報告の仕方が役に立っているなどの声を聞くことができた。

4. 2024 年度の活動報告

①新規科目の履修・3 年生 (資料 3)

○渡邊教員より、資料 3 に基づき以下の説明が行われた。

・「臨床看護の実践Ⅰ」では、心筋梗塞の模擬患者を設定し、様々な場面でコミュニケーションや観察をした上で判断し、実践するという授業を行った。

・「臨床看護の実践Ⅲ」では、各領域で体験したことを踏まえて、対象の価値観を尊重した関わりについて発表や討議を行う合同カンファレンスを予定している。

②2024 年度授業計画および実習計画について (資料 4、5)

○伊東学科長より、資料 4、5 に基づき、各学年の授業計画、実習計画について説明が行われた。

○主な質問・意見等

質問・意見等	回答等
・1、2 年生の基礎実習をする時期は決まりがあるのか。	・学校によって違うところはあるが、基本的には各論実習が始まる前に基礎実習が終

	わるように組んでいる。
--	-------------

③2025 年度教育課程変更について（資料 6）

○伊東学科長より、資料 6 に基づき、以下の説明が行われた。

- ・3 年間で 3,105 時間、109 単位を履修する。
- ・臨地実習は計画を変更しなければならない状況があり、時期や場所を変えることになる。

5. 2024 年度の教育活動と学科運営

①授業科目臨床看護の実践Ⅰ・Ⅲ

○伊東学科長より、以下の説明が行われた。

・先ほど渡邊教員より説明があったとおりだが、どちらも改めて何かをやるのではなく、すでに行っていた取組を科目として置いたものである。

②授業科目キャリアデザインⅡ進捗状況（資料 7）

○伊東学科長より、資料 7 に基づき以下の説明が行われた。

- ・去年取り組んだ看護観の発表（2 分の 1 看護観）は今年も行う予定。
- ・介護福祉科との合同授業（第 2 回目）は、進め方やテーマについて検討している。テーマについては、介護福祉科から提案のあった震災時の対応や、この会議で意見が出た食事などが挙げられている。

③2025 年度教育課程変更検討について（資料 8）

○伊東学科長より、資料 8 に基づき以下の説明が行われた。

- ・来年度は実習の時期が大きく変わる。そこで、前期（8 月後半まで）に何をするか、特に 2 年生の「基礎看護実習Ⅲ」をどこでするかに頭を悩ませている。同じ実習が複数の病院に分かれることになった場合でも学びに差がないようにしたい。

○主な質問・意見等

質問・意見等	回答等
・今、6 領域の実習が連続して心身ともに疲れる学生が出てきている。「地域・在宅」と「小児」の 2 つを前期に移し、マックス 2 領域連続して 1 回休憩を入れる形にしたい。そのために、直前にオリエンテーションを組み込むなどの工夫が必要になる。 ・カリキュラムを調整する上で、再試のための補習と補講を考えなければならない。前期に新しいものを入れるのではなく、最低限、都や国から求められている単位修得をマストとして考えるのが最優先かと思う。 ・「地域・住宅」は、35 名受けてもらえそうか。 ・実習先が変わることによって、学びの差があるのは困る。受入れ病院として心がけていることや注意していることがあれば教えてほしい。 ・「母性」と「小児」の実習受入れ体制についても早めに検討いただきたい。	・6 領域を 8 月の終わりから 11 月まで突っ走るのではなく、学生がケースをまとめたり、ほっとできる時間があるとよい。 ・現在調整中である。 ・事前の実習指導者会議で領域別の目的や目標をしっかりと確認し合うことが重要だと思う。

以上